

INTEREST試験の結論

- 全生存期間におけるゲフィチニブのドセタキセルに対する非劣性を示すという主要目的が達成された。
 - ハザード比はアジア人(1.04)とアジア人以外(1.01)で類似していた。
- 無増悪生存期間、奏効率、随伴症状改善率については、ゲフィチニブとドセタキセルとの間に差は認められなかった。
- ゲフィチニブの忍容性プロファイルはドセタキセルに比べて良好であった。
- ゲフィチニブの治療を受けた患者では、ドセタキセルに比べて臨床的に意義のあるQOLの改善がみられた患者の割合が高かった。

55

国内第Ⅲ相試験(V-15-32)及び INTEREST試験の比較